

# Gikyohan Times

No.0007

岐阜県教販通信

2020年12月発行

## School e-Library（電子書籍）進呈

当社は岐阜県の全小中高校に紙の教科書を供給し続けて100年以上の会社です。この度当社は岐阜県の全小中学校に「SCHOOL e-LIBRARY」を41ライセンスと特別支援の生徒全員に進呈することになりました。当社はGIGAスクール構想により全生徒がタブレットを持つことで新しい読書体験の場を作る事と、コロナ禍で本屋や図書館が休業していてもいつでも自由に本を読むことができ場を作るという目的で進呈します。この進呈の件を寺脇氏が認めて頂き下記のお言葉を頂きました。岐阜県の子どもたちに新しい読書の機会を与えることで深い学びにつながる一助となればと思います。尚、商品の詳細情報は当社HP (<http://www.gifukenkyohan.co.jp>) のバナーで確認お願いいたします。



寺脇 研 氏

寺脇研(てらわき けん、1952年～)元文部官僚。星槎大学大学院教育学研究科客員教授。官僚時代には文部省NO.1の論客でならし、ゆとり教育の広報を担った。福岡県福岡市出身

このほど、岐阜県内の小中学校に School e-Library が導入されると聞き、たいへんいいことが始まったと喜んでいる。もちろん、その前提には、政府が大幅な前倒しで実施するGIGAスクール構想がある。これによって、全ての小中学生に一人一台のPCが与えられる。コロナによる全国一斉学校休業期間中に、PCを使ったオンライン授業の必要性が明確になった結果、整備が急速に進んだのである。しかし、急速だったゆえに、学校の教室で使用する場合も、オンライン授業にする場合も、PCを使った教育のやり方が十分練れているとは言えない。校内研究などで従来から熱心に取り組んできた一部の学校を除けば、現場の戸惑いは少なくないだろう。拙速に取り組んで不十分な使い方をしてしまえば、対面授業に遠く及ばない代物になってしまいかねない。何より、子どもたちにPC授業への拒絶感を抱かせてしまうのが怖いのではないか。PCが欠かせないこれからの世の中に出ていく彼らに、アレルギーを起こさせてしまってはいけない。かといって、臆病になって使用を極力控えると、せつかくの一人一台のPCが埃をかぶってしまう羽目になりかねない。これでは、何のためのGIGAスクール構想導入だったのかわか

らないわけで、子どもたちからも保護者からも不信を招くだろう。

そうならないために、School e-Library の役割には大きな期待が持てる。なにしろ、これだったらPC配布の日からすぐに使える。端的に言うと、子どもが自身でPCを操作してアクセスしさえすれば、もう本が読めるのである。それまでPCに馴染みのない子どもにも、この装置の威力が実感できるはずだ。また、操作のやり方に習熟する経験にもなる。

学校側が万全の態勢でPC授業に臨めるまでの間、子どもたちはSchool e-Libraryを自由に使って読書というすばらしい学びの形を生かしていくに違いない。いや、PCを授業による学びだけに使うのはもったいない、と私は常々思っている。読書、自分の興味・関心に従って自発的に行う調べ学習など、用途は多岐にわたっている。

School e-Libraryの「掲載書籍一覧」を見ると、実に多様で有用な本が揃っている。私が子どもの頃、夢中になって読んだ作品もたくさん入っていて懐かしい。古典文学もあれば現代の物語も、歴史書も科学書も…。これだけの本が自由に読める機会は、実際の図書館でもなかなかないだろう。

これによって子どもたちの学びの幅が広がり、本から得た知識や新しい疑問が教科学習への意欲を一層かきたてると信じている。